

令和5年度児童養護施設睦の家事業報告書

1 所在地	兵庫県丹波市青垣町文室 204 番 2
2 利用定員	30人
3 職員定数	30人
4 事業開始	平成25年4月1日

【事業運営の基本】

法人理念の実現を目指すと共に、ユニット化と高機能化に向けて適切な諸計画の策定と実行に努めました。事業計画については、社会的養護の推進と子どもの権利擁護、自立支援、地域支援の視点から具体的取り組みについて検討を図りました。

【施設の処遇理念】

- ① 私たちは子どもの権利を保障します。
- ② 私たちは子どもの成長・発達を支援します。
- ③ 私たちは子どもの自立を支援します。
- ④ 私たちは地域の子育てを支援します。

【処遇の基本方針】

規則正しく心地よい生活と信頼関係を基盤として、児童のひとりひとりが護られ、安心安全で健やかに生活できる環境を整え、児童の自主性を尊重しながら生活スキルの獲得と豊かな人間性及び社会性の養成をはかると共に学校、こども家庭センターその他の関係機関と連携し、個性、能力及び発達段階に応じた指導と援助を行い、児童の福祉を高め健やかな成長を促し、その自立と家族再統合を支援する。

【処遇実績】

1 各月初日在籍児童数

区分／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
幼 児	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	38
小 学 生	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
中 学 生	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
高 校 生	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	97
そ の 他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9
計	29	28	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	324

2 一時保護・ショートステイ延日数

区分／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
一時保護	0	10	18	54	20	15	36	90	41	0	48	54	386
ショート	7	16	0	0	7	18	12	0	6	0	0	0	66

3 入所・退所児童数

区分\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	幼児													0
	小学生													
	中学生													
	高校生													
退所	幼児		1											7
	小学生													
	中学生											1		
	高校生	1											3	
	その他									1				

4 生活時間のめやす

規則正しい生活への自主的な適応を目指し指導に努めました。

平 日		休 日		備 考
起床	6:30	起床	6:30～7:00	おおむね適応している
朝食	6:10～7:30	朝食	6:50～8:00	〃
登校	6:30～8:20	学習	9:00～	〃
おやつ	10:00～10:30	おやつ	10:00～10:30	〃
昼食	12:00～14:00	昼食	12:00～13:00	〃
下校	14:00～19:00			一部の児童は時間外
おやつ	15:00～15:30	おやつ	15:00～15:30	一部の児童は時間外
学習	15:30～	学習	15:30～	おおむね適応している
入浴	16:00～20:30	入浴	16:00～20:30	一部の児童は時間外
夕食	17:30～19:10	夕食	17:30～19:10	一部の児童は時間外
就寝消灯	20:00～23:00	就寝消灯	20:00～23:00	おおむね適応している
自主学习	21:00～24:00	自主学习	21:00～24:00	おおむね適応している

5 児童集団行事等実績

5月 3日	みんなでBBQしよう	全児童	勤務職員
7月 9日	招待：みやけんピアノライブ	小中高生8名	職員3名
7月 7日	海水浴（竹浜海水浴場）	全児童27名	職員10名
8月 7日	公共交通機関利用体験（福知山）	中学生4名	職員2名
8月18日	公共交通機関利用体験（福知山）	中高生5名	職員2名
8月21日	夏のおでかけイベント（ヨーデルの森）	幼児3名	職員4名
8月21日	招待：スペシャルイベント（USJ）	全児童23名	職員6名
8月25日	公共交通機関利用体験（神戸）	高校生2名	職員2名
8月27日	睦花火大会	全児童	勤務職員
8月29日	公共交通機関利用体験（神戸）	高校生5名	職員2名
9月 8日	卒園生交流：一緒にBBQ	全児童、卒園生10名	勤務職員
10月 9日	地域招待：サツマイモ掘り	児童20名	職員6名
11月12日	歯科医師会講師派遣：ブラッシング講習	中高生	講師（歯科衛生士）2名

11月	2日	ユニット対抗！さつまいもスイーツコンテスト	全児童	勤務職員
11月	16日	招聘：わかさ生活サンタ	全児童	勤務職員
11月	25日	佐治菜園サークルさんとの地域交流：やきいも大会	全児童	勤務職員
12月	17日	招待：大阪桐蔭吹奏楽団コンサート	中高生4名	職員2名
1月	2日	みんなで外食	児童13名	職員5名
3月	20日	楽しくプチバイキング	全児童	勤務職員
3月	25日	招待：おもちゃ王国	全幼児3名	職員2名
3月	27日～28日	春の旅	小中高生23名	職員9名

6 避難訓練実績

各月1回 年12回

7 支援計画の策定と実施

(1) 自立支援

自立支援計画策定についての見直し（必要な児童については3か月ごとにこども家庭センターと協議）への対応として、全児童についてアセスメントシートを作成しました。

高校卒業した4名については、それぞれ希望の進路を叶えることができた。中でも就職希望の1名は、地域の福祉機関との連携を図り、自立に向けた支援を行った。1名の高専5年生については、希望する大学に進学することができた。また、社会的養護自立支援事業を利用している1名については、訪問指導等を行い、社会自立に向けた支援を継続している。

(2) 個別対応

被虐待児や集団に適応し難い児童等、個別対応が必要とされる児童6名について、生活場面・創作活動での1対1の対応や個別面接を行い、個別ニーズを理解把握し、愛着関係の再構築を図りました。

(3) 家庭支援

保護者への相談等を行い、親子関係の再構築を図り、家庭復帰に向けた支援をした結果、年度内に家庭復帰となった児童は3名でした。また、令和5年度家庭復帰に向けて1家庭1名の支援を行い、長期一時帰宅等における家庭との連携を図っています。

(4) フォスタリング

関係機関と連携しながら、里親支援専門相談員を中心に里親サロンへの協力、里親相談会、大学等への出前講座など里親制度啓発の取組を続けました。

コロナ禍で中止していた季節、週末里子を再開し、里親子の交流の推進をはかっています。令和1年度里親委託した1名については、週末レスパイト等を継続し、里親子支援を行っています。さらに、ファミリーホームのレスパイト受け入れにも積極的に取り組んでいます。

また、法人里親サロンを実施し、里親への研修、交流の場の提供を行いました。プログラムを取り入れた里親登録前実習実施し、里親制度の推進に注力しています。

(5) 児童との懇談会

児童の意見や要望を取り入れ、行事計画を立て、児童の自主的、主体的な活動の機会を増やしました。

(6) 児童集団行事

新型コロナウイルスの影響で中止していた旅行や地域交流等の集団行事を、ほぼ再開

することができた。また、卒園児交流、公共交通機関利用体験等、新たな行事を企画し、児童が楽しめる行事や児童の自立に向けた行事を工夫して実施することができた。さらに、ユニット対抗スイーツコンテストでは、子どもたちの自主性を大きく高めることができた。

8 支援結果の概要

- (1) 幼児は日常生活に概ね適応し明るく、元気よく、健やかに生活することができました。愛着面での課題が顕在化する児童がおり、個別対応等で工夫をしながら支援しました。
- (2) 新型コロナウイルスの影響もはばなくなり、学校行事等がほとんど再開され、小学生の多くは、明るく、元気よく生活することができました。軽度発達障害や情緒面が不安定である児童については、学校、関係機関と連携しながら支援しました。
- (3) 中学3年生2名はしっかりと学習に取り組み、それぞれが希望する高校に進学することができました。人権作文においては、自分の生き方を見据えた人権作文が、丹波市最優秀賞となり、子どもたちの励みになりました。
- (4) 高校生8名は、概ね安定した高校生活を送ることができました。高専5年生1名については、希望どおり進級することができました。
- (5) 特別な支援の必要な児童13人
知的障害4、情緒・軽度発達障害9
- (6) 通院児童 28人、延338人
- (7) 予防接種 インフルエンザ25名 日本脳炎1名 二種混合0名 麻疹風疹0名
- (8) 健康診断 春26名 秋27名

【運営管理】

1 人事・労務

(1) 職種別職員数

職 種	施 設	児・保	心理士	事務	栄養士	調理員	非常勤	嘱 託	計
年度始	1	17	1	1	2	2	6	1	31
年度末	1	17	1	1	2	2	8	1	33

(2) 職員採用

月 日	職 種	福祉施設経歴等
04月01日	保育士	あり
04月01日	保育士	なし
10月01日	児童指導員	なし
10月01日	事務員	なし

(3) 職員異動・変更

なし

(4) 職員の退職

月 日	職 種
06月30日	施設長
09月30日	児童指導員

2 協定締結及び届出

36協定（令和5年3月27日締結 3月27日届出）

3 会議

(1) 施設が開催した内部の主要会議

- ① 職員会議
- ② 職員ミーティング
- ③ リーダー会議（副施設長、フロアーリーダー、統括児童支援、事務、調理）
- ④ 給食会議
- ⑤ 児童と職員の会議
- ⑥ 支援検討会議（自立支援計画策定会議を含む）
- ⑦ 実習生と職員との反省会議

(2) 関係機関等開催の外部会議

県養連協議員会議、児童福祉施設関係機関会議、職員幹事会議、小中 PTA 会議、高校評議員会、こども家庭センターとの会議、小学校・中学校・教育委員会との会議、県児養連理事会、要保護児童対策地域協議会議、丹波市社会福祉法人協議会、丹波市子ども子育て会議

4 職員健康診断

入社時検診 3名
定期健診 前期 21名 後期 31名
インフルエンザ予防接種 7名
腸内細菌培養検査 18回 延べ72名

5 監査等

- (1) 第三者評価 外部評価
- (2) 行政指導監査 チェックリストによる監査
- (3) 消防査察 消防査察 令和5年度はなし
- (4) 自主点検 建物遊具点検（毎月）

6 研修

(1) 職員外部研修

中堅職員研修、ファミリーソーシャルワーカー研修、里親研修会

(2) 職員内部研修

事業計画、子育て支援規準研修、自立支援計画実施研修、支援技術研修、栄養・給食研修、施設内虐待防止研修

7 苦情解決

令和5年度も意見箱や口答で苦情や要望が数件あった。そのため、全中高生と担当職員（殊遇職員以外）が面談し、課題を整理後、ユニットで担当職員と話し合いをもち、課題解決に向け対応しました。

①職員によって対応が異なる

→職員が情報共有を行うとともに、ルールの内実については、その目的を共有すること（信頼関係）が重要であることを再確認した。

②職員がその時の感情で対応する

→この指摘を真摯に受け止めるとともに、その趣旨について再度、子どもたちと意思を共有した。

③要望した結果の報告が欲しい

→可能な限り、丁寧に説明する

④高校生の門限を遅くしてほしい

→その趣旨を共有し、個別対応する中で、現状維持

⑤オープンキャンパス等の昼食代（350円）をあげてほしい

→500円とし、超過分は児童負担

⑥BBQ等の機会を増やしてほしい

→BBQ等行事を増やすとともに、ランチバイキングやユニット対抗スイーツ大会等を企画し、盛り上がった

⑦お菓子作りの回数を増やしてほしい

→自立支援と連携し、様々な機会を持った

【施設整備等】

1 建物・設備の整備
なし

2 器具及び備品、ソフト、車輛の購入

ノートパソコン 2台	264,000円	4月・5月
多目的棟外溝工事	726,000円	7月
テレビ 1台	108,000円	8月
防犯カメラ*7	1,265,000円	11月

【寄付金・寄付物品受領】

寄付件数 93件 780,050円

【地域との交流・連携】

1 実習生・ボランティアとの交流と連携

・実習生等の受入と指導及び実習関係大学との交流・連携

※実習受け入れ校

豊岡短大 湊川短大 大阪青山大 元町こども専 神戸医療専門学校 10名 100日

2 里親研修の受入 6組12日間

専門里親研修の受入 1組 2日間

3 関係機関・各種団体との連携

・県児童家庭課等関係部局、各こども家庭センター、関係市家児相、健康福祉事務所

・教育・保健・医療機関

・市役所、警察署、消防署、職安、労基署、社会保険、その他の官公庁

・民生委員児童委員、主任児童委員、子どもの権利擁護委員会

・兵庫県児童養護連絡協議会、近畿児童養護施設協議会、全国児童養護施設協議会

・第三者委員

・社会福祉協議会、共同募金会、但馬里親会、北摂丹波里親会

・要保護児童対策協議会（丹波市、丹波篠山市）

4 地域の子育て相談事業・支援事業

・一時保護、ショートステイ事業